

会 議 録

会議の名称	市民参加推進会議（第43回）		
事務局	企画財政部企画政策課企画政策係		
開催日時	平成28年2月19日（金）午後7時00分～午後9時00分		
開催場所	商工会館2階 大会議室		
出席者	委員長 西尾 隆 委員 副委員長 渡邊 大輔 委員 委員 一山 稔之 委員 大久保 勝盛 委員 佐久間 博子 委員 原 久子 委員 三輪 茉莉香 委員 五島 宏 委員 山下 光太郎 委員 河野 律子 委員 天野 建司 委員		
欠席者	0人		
事務局	企画政策課長 水落 俊也 企画政策課長補佐 中田 陽介 企画政策課主任 津田 理恵 企画政策課主事 高橋 奏恵		
傍聴の可否	<input checked="" type="radio"/> 一部不可 <input type="radio"/> 不可		
傍聴者数	0人		
【会議次第】 1 開会 2 市民参加条例運用状況等について (1) 第6期市民参加推進会議の議題について (2) 次回推進会議の開催日について 3 閉会			
【会議結果】 1 開会 ○事務局から説明 ・市民団体代表1名の辞職に伴い、団体代表枠1人について募集を行うことについて。 2 市民参加条例運用状況等について (1) 第6期市民参加推進会議の議題について ○各委員からの議題提案（資料1参照） （各委員の提案は資料1のとおり。資料1に掲載していないが、当日提案された意見。） ・若者のワークショップをやるにあたり、どうやって呼びかけるか。また、どんな勉強会にしたいか。 ・サークルのリスト化については、公民館に名簿録があ		全文記録ページ P1 P1～P2 P2～P24 P2～P24 P9 P9	

<p>るので、それでよいのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状の若者の市民参加の働きかけに併せて、将来若者になる小中学生にも市民参加の意識付けを行っていくべき。 ・若者により多く参加してもらうために、大学と小学校の交流をしている学校を増やしてほしい。しかし、実際に頑張ろうとしたときに、大学生は小金井市からいなくなってしまうことが多いため、この部分も考え、構成を組む必要がある。 ・今までの意見を踏まえ、どのような形で人を集めたほうがいいのか、ファシリテーターの育成等について書かれた、ワークショップの手法・マニュアルのようなものを作成するとよい。 	<p>P10~P11</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・若者により多く参加してもらうために、大学と小学校の交流をしている学校を増やしてほしい。しかし、実際に頑張ろうとしたときに、大学生は小金井市からいなくなってしまうことが多いため、この部分も考え、構成を組む必要がある。 	<p>P11~P12</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・今までの意見を踏まえ、どのような形で人を集めたほうがいいのか、ファシリテーターの育成等について書かれた、ワークショップの手法・マニュアルのようなものを作成するとよい。 	<p>P12~P13</p>
<p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進会議でワークショップをやることは可能か。また、予算がかかる場合、何をすれば良いか。 <p>→事務局回答：協働については市民協働の委員会が立ち上がっているため、推進会議では市民参加をメインに考えた方がよい。ワークショップの手法を検討する中で、推進会議が試しにワークショップを実施する事は可能と思われる。予算が伴う場合は、平成29年度の予算編成に向け、平成28年7月頃に一定の方向性をかためたものを市への提言としていただければ、予算要求がしやすくなる。</p>	<p>P13~P14</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・若者中心のワークショップを具体化させる事を1つの柱にする。それ以外に複数の関連するものを取り入れる。 	<p>P15</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・予算に影響がなければ、平成28年度のうちに何かをやることは可能か。 <p>→ワークショップなどを行う場合、どこの事業課で実施するか、事業課で実施予定のワークショップがあるか、調整が必要になる場合がある。平成28年度は、企画政策課でもワークショップの実施予定のもの（男女共同参画行動計画と公共施設等総合管理計画の市民懇談会）がある。</p>	<p>P15~P16</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・広報について、だれを対象にするかによって、その対象世代と同世代にチラシを作成してもらうのはどうか。若者もどこまでを対象にするかで書き方が変わってくる。 	<p>P16</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップの手法の考え方として、既に、具体化されているものを参考にしながらアイデアを提供し、手法を作りあげていく方法がある。1から作らなくてもよい。 	<p>P17</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議でワークショップを企画運営するのか、現在、 	<p>P17</p>

<p>行政が予定している参加・参画の場に推進会議がかかわるのか。</p> <p>→推進会議でワークショップを実践する方が、細かいところまでイメージできるが、附属機関としてやり過ぎに感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 守備範囲を明確にしてほしい。若者のテーマで実施するのであれば、これにあわせて取捨選択したほうがよい。 ・ ワークショップで人を集めるための広報の仕方についての道筋を作れたらと思う。 ・ 若者の市民参加について話し合うことが大事だと思う。このことについて、議論した上で、具体的な方策が出たら、そのことについて試す道筋がいいのではないか。 ・ ファシリテーターの養成は、人材育成を継続的にできる仕組みづくりとしても、今後の市民参加の推進へつながる。 ・ 若者に響く原則やルールは何があるか考えていくのもいいと思う。 ・ ワークショップを開くときは、どういうゴールを設定すると皆が参加したくなるかを具体的に考えておくことが重要。 ・ 例えば防犯対策として親子で市内を歩きながら危ない場所の地図を作成し市長に渡すなど具体的にするとやる気がでる。 ・ ワールドカフェに参加した際、参加して各テーブルで話し合ったことがどのように計画につながるかが見えなかった。 ・ ワークショップのためにどうするかではなく、市民を集める際の集め方・広報の仕方の部分だけを考えていくのはどうか。 ・ ツイッターの他に広報の仕方としてフェイスブックも非常に有効。 ・ フェイスブックやツイッターは、すごく大事なことは更新する事で、お金はかからないが人的リソースがすごくかかるものだと感じる。 <p>【決定事項】</p> <p>(基本方針・守備範囲) 市民参加推進会議が主体となってワークショップを実施することを考えるのではなく、市民参加の推進のために提案をする。</p> <p>第5期の提言の(1)に向けて、具体的な手順・方法を検討する。</p> <p>(具体的な内容として提案されたもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ファシリテーターを養成する。 	<p>P18</p> <p>P18~P19</p> <p>P19</p> <p>P19</p> <p>P19~P20</p> <p>P20</p> <p>P21</p> <p>P21</p> <p>P21</p> <p>P22</p> <p>P22~P23</p> <p>P23~P24</p>
--	---

<ul style="list-style-type: none"> ・広報の仕方を考える。(呼びかけ方法やフェイスブックの活用について) ・ワークショップの定期的な開催を1つの形とし、そのためのルール作り。 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップをやる事により、どのようにつながるかを見せる。(例：最後に市長と話し合いをする等) ・将来の若者(小中学生)への市民参加の意識醸成 <p><その他> 審議会の構成メンバーについて団体等に偏りがないか事務局で調べる。</p> <p>(2) 次回推進会議の開催日について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月19日、20日、26日、27日の中で後日、事務局から日程調整を行う。 →5月27日午後7時から開催することとなった。 <p>3 閉会</p>	P24~P25
<p>【提出資料】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 第6期市民参加推進会議議題 提案メモ一覧 各委員の提出メモ全文 2 第6期推進会議行程表作成シート 3 パブリックコメント実施状況調査(平成26年度) 	

第43回小金井市市民参加推進会議

日 時 平成28年2月19日(金) 午後7時00分～午後9時00分

場 所 商工会館2階 大会議室

出席委員 11人

委員長 西尾 隆 委員

副委員長 渡邊 大輔 委員

委員 一山 稔之 委員 大久保 勝盛 委員

佐久間 博子 委員 原 久子 委員

三輪 茉莉香 委員 五島 宏 委員

山下 光太郎 委員 河野 律子 委員

天野 建司 委員

事務局職員

企画政策課長 水落 俊也

企画政策課長補佐 中田 陽介

企画政策課主任 津田 理恵

企画政策課主事 高橋 奏恵

傍聴者 0人

(午後7時00分開会)

◎西尾委員長 皆さん、こんばんは。それでは第43回、第6期2回目の市民参加推進会議を始めたいと思います。最初に、前回お休みでした河野委員、天野委員から一言ご挨拶をお願いします。

◎天野委員 皆さん、こんばんは。前回は欠席してしましまして申し訳ございませんでした。総務部長の天野です。どうぞよろしくをお願いします。

◎河野委員 皆さん、こんばんは。前回欠席で申し訳ございませんでした。企画財政部長をしております河野と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

◎西尾委員長 よろしくをお願いします。会議に入る前に連絡事項がございまして、田中委員が本日いらしていませんが、体調の関係で会議に出席することが難しくなり、辞任したいと事務局に連絡されたそうです。事務局からは、体調がよくなるまでお休みということではどうかと相談されたそうですが、それも難しいということで、2月13日に辞職願を提出されたということです。田中委員は団体代表枠の1人ということで、再募集をしたいと事務局から伺っています。このことについて事務局からご説明をお願いいたします。

◎事務局 事務局から再募集についてご説明させていただきます。今回、田中委員の辞職に伴

い、市民団体代表の1人を再募集いたします。広報については今期の募集と同様の形をとり、3月15日号の市報とホームページ、市内各施設で募集の配布を行いたいと思います。募集期間は、3月15日から4月14日の1か月間とし、論文による審査・選考を行います。次回の推進会議開催を5月に予定しておりますので、次回の開催日に新しい委員の方が参加できるように調整を行いたいと思います。以上です。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。こちらの進め方でよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

◎西尾委員長 ご異議なければ、この形で再募集を進めたいと思います。

本日は、田中委員が辞職されたということで、欠席者はいません。

前回、休憩をとるかどうか最初にお諮りしましたが、今回から2時間のうち、途中で5分程度、休憩をとりたいと思います。ご異議ないでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

(資料の確認)

(資料2「第6期推進会議行程表作成シート」について)

左側に前期の会議の行程表を一覧にしたものが記載されており、右側には第6期推進会議の行程表が書き込めるような形にしております。

簡単にこちらの行程表の作成シートについてご説明させていただきます。まず、左側の「(参考)第5期推進会議行程表」は、第5期推進会議の流れについて記載されています。1回目は第6期の推進会議と同様で、委嘱状の交付と条例の説明等を行っており、2回目で議題の決定をしております。3回目から5回目でワーキンググループを2回交えながら、具体的にどんなことをやり、提言案を作るかを考えていき、6回目にはでき上がった提言案について審議を行っております。7回目には提言を確定し、これに伴い市長へ提言を行い、8回目には市長の回答を公表し、これについてまとめ、次期への引き継ぎ事項の整理を行い、第5期が終わりました。スケジュール感としては第6期も6回目から8回目は同様な形になっていくかと思います。スムーズに推進会議を進めるに当たり活用していただければと思います。

(資料3「パブリックコメント実施状況調査(平成26年度)」について)

こちらについては前回の推進会議でお配りしていますが、訂正がありましたので再度配布させていただきます。訂正部分につきましては、2ページ目の一番下にあります「いじめ防止基本方針(案)」についてです。「意見提示できる者」の項目について、以前は「市内在住・在勤・在学の者」というふうに記載がありましたが、前回の会議でご指摘いただいた部分について担当課へ確認したところ、記載誤りであることが判明したため修正いたしました。正しくは「市内在住・在勤・在学の者、市内に事務所や事業所を有する法人又はその他の団体」と修正いたしましたので、よろしくお願ひします。

◎西尾委員長 ありがとうございます。ご質問等ありますか。

今日は、第6期市民参加推進会議の議題について、何を議論するかということになっており

ます。宿題の「議題提案メモ」を皆さんからいただいているので、それをもとに会議を進めていきたいと思えます。

この会議は、スケジュール表ですと2回目の部分になります。6回目以降はまとめに入っていくということですので、今日は議題をかなり明瞭に確定する必要があると思えます。

それから、前回事務局から説明がありましたが、この推進会議において議論する事項については、次第の四角に困ってある部分になります。条例26条、27条の規定の範囲のことについて推進会議で決定し議論を進めていくということです。26条は、「この条例の適正な運用状況を審議するため、市民参加推進会議を設置する」。27条で、「推進会議は、社会情勢の変動に留意しつつ、この条例の運用状況を審議し、条例の見直しを含め、市民参加と協働を推進するために必要な意見を市長に提言するものとする」とあります。確認になりますが、この規定の範囲について議論していくということです。

それでは、皆さんからいただいた資料1をご覧ください。9人の方から14件の意見をいただいています。内容をご説明いただき、これについて議題を絞っていき、議論していきたいと思えます。1件につき2、3分で進めていきたいと思えます。私は、一番最初に載っていますが、最後に一言言うことにしまして、渡邊副委員長からご説明をお願いできればと思えます。

◎渡邊副委員長 2ページ目の裏をご覧ください。前回、文脈は忘れてしまいましたが、この委員会は市民参加を議論する場ですので、いわゆる社会参加を議論するのは少し違うだろうということをお話し申し上げたと覚えております。前回ご説明したように、高齢者の社会参加研究を専門にしていますが、社会参加というと、我々の文脈では就労もボランティア活動も入ってきます。これに対して、小金井市で市民参加を議論するというのは、市民が行政にかかわっていくという点が大きいと思えます。もう少し言うと、政策にかかわり、それが、評価をする、立案する、協働するときまざまな形があると思えますが、市民が行政の、ないしは公共的な課題にかかわっていくという部分が大きいと思えます。

このように考え、かつ2年間という短く、あまり回数もないことを考えますと、具体的な何かをするというよりは、どのように市民参加がしやすいインフラを作っていくのかということ議論する必要があるのではないかと考えて提案させていただいたのが、ファシリテーターの育成という部分になります。例えば、若者の参加でも高齢者でもいいのですが、何か参加していただきたいから、とにかく集まってもらって議論することができれば何か起きるんじゃないのかと期待する方が多いです。しかし、多分そのようなことは起きません。現実問題、人が集まったからといって自然に議論が起きるということはなく、関心がある人しか集まりませんし、また、当然ながら意見というのはぶつかることがあるわけです。例えば、ある人は子育てに関心があって保育園を増やしてほしいと言うけど、ある人は環境問題に興味があって環境を変えてほしいという。どちらも税金が必要であり、かつ税金にある程度枠が決まっている。そして、どちらも大事なんです。どちらも要らないというよりは、どちらも大事なときの議論をどう作るか、意見が異なったときの対話の回路をどう作るかというときに、近年注目されるの

はファシリテーターの役割です。すなわち議論がぶつかったり、あるいは、そもそもベクトルが違う議論、環境と保育はまさにそうですが議論の向いている方向が全然違うような議論をしたときに、議論を盛り上げる役が必要になります。

市民参加を進める中で、市民に多様な意見を持っていただく、これは当然で、むしろ同じ意見しかなかったら参加なんかする必要ないので、多様な意見がある中で、議論をするようなベースになるものが必要となります。しかし、そのベースになる人材が必要で、その人材というものを小金井市の中で増やしていくことによって市民参加の推進の基盤を作るということを考えていこうというものです。もちろん、皆様のご提案に、さまざまな具体的なテーマがありますので、そのテーマを推進していく中でファシリテーターも同時に育成していくということも考えられると思います。

以上のような問題設定を考えた上で、初めにいきなり人材を作ることは難しいですが、近年はファシリテーター育成のNPO等も増えていきますので、ファシリテーション能力がある人間をお招きして、どういうふうなものが必要かということをお話していただいたり、あるいは、この役割は場合によっては行政の方が担ってもいいですし、小金井市で既に先行的に活躍されているNPOであるとか、あるいは商工会とかある種の公的機関のアクティブな方々、こういった方々に能力を身につけていただきながら、広げていただく。こういったことを考えてはどうかということが提案になります。

では、具体的にどのようなファシリテーターが小金井市の文脈において求められるのか、また、それをどのように広げていくのかという点をこの場で議論してはいかがかと思います。

以上になります。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。何かご質問はありますか。確認等したい部分があればお願いします。皆様、ファシリテーターという言葉はわかりますか。

◎渡邊副委員長 ちょっとこの言葉は難しいですが。

◎西尾委員長 最近は割と出てくる言葉です。昨日も卒論発表会に出ましたが、大学院生がファシリテーター、コーディネーター、色々な表現をしていました。

◎渡邊副委員長 一応ここではこのように書かせていただきました。つまり、異なる意見を持つ人々が生産的な議論を行うために、討議の場で意見を引き出し、討議を盛り上げる能力。やはり声の大きい人ばかりが意見を言うてしまうことはよく起こることですよね。あるいは、わかりやすい例を出すと、子ども連れのお母さんが来たとき、子どもが泣いてしまったら邪魔だから出て行けと言われてたら、子ども連れの方が発言できなくなる。でも、その人は必要な能力を持っているかもしれないから、むしろここはこうでしょうという形で、出て行かせようとする意見を封鎖する。意見を引き出して、かつ、その意見がスムーズに流れる能力をここではファシリテーションと呼んでいます。一般的には司会と言うわけですが、もう少し議論を盛り上げていくような意味での司会のことをここではファシリテーターとしています。

◎西尾委員長 ありがとうございます。討論の中でということですが、会議の司会の進行役の

ようなイメージでいいと思います。しゃべる人のコントロールをすとか、ちょっと水を向けたら話しそうな人に意見をもとめるというようなことがあるだろうと思います。まちづくりでは会議を含めて、色々な場面で参加を促進するような人も入るのではないかと思います、そういう人の育成というご提案です。

それでは、一山委員、お願いいたします。

◎一山委員 お手元の資料をご覧くださいと、まずは今回の議題でもありますが、守備範囲を決めていただきたい。それから、基本方針はたしか第5期の提言の(1)の実現というようなことを初回話したようなことがありましたので、では若者をどう市政にということから、その辺もって作った提案がこちらでございます。順不同のやつは、小金井市のツイッターはもうちょっと何とかすれば、今3,000が1万ぐらいになってほしいなというのが、これは自分が数理情報とかをやっておりますので、情報のほうからのことで何とかお金をかけずにできないか。

それからもう1つは、埼玉県の三芳町というところの刊行する広報誌の「みよし」というのが朝日新聞にも取り上げられるぐらい非常に人気があると。実際見てみましたら非常におもしろかった。ただ、これはお金がかかりますので。

それからその次に、小金井市はまちづくりカフェというのが、見させていただいたら非常におもしろそうで、できたらこっちに行きたかったなというような感じもしましたので、これをまた何かにぜひともつなげてほしいなと。

それからその次は、せたカフェというのがあって、小金井市にもこういうのがあるといいなという。向こうがせたカフェなので、まねをしてこがねいカフェ。ただし、夢と妄想、要するに妄想も語ってほしいなというような感じで書きました。せたカフェはお酒も出されるということ。

それから、今回のこの会議に出席なさっている方々を拝見いたしますと、すごく期待しているのですけれども、市役所で、しかも青年会議所とか商工会とかそういう方々が参加されているので、自分が今大学に籍を置いて、就職のときに本当に大学を選ぶのよりもっと安直に企業を決めていますので、できたら、インターンシップなんかでは見えないので、そういうのができる大人の、あるいは若者版のというのを作れたらなと思いました。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。何かご質問等ございますか。

法的には先程お話しした条例の条文がありますが、もう少し具体的にどういう方向で、どの範囲で、限界があるとすればどういうところかもまた改めて議論したいと思います。ありがとうございました。

中身と若干ずれていますが、この表紙の順番に沿っていきたいと思います。五島委員、お願いいたします。

◎五島委員 4枚目になります。「市民参加を進めるために」というタイトルの部分です。ちょっと迷ったんですけど、なるべく具体的な書き方のほうがいいかなと思ったので、そういう

内容にしてみました。市民～行政の懇談会の定期的な開催です。話し合いの場を定期的に設けましょうよということです。年一、二回、テーマは毎回いろいろなテーマが、問題、課題があるだろうと思いますので、あらかじめそのテーマを設定して、それについて話し合いますよということで広報して集まってもらって、さっきこの話し合いが出ましたけど、ファシリテーターなりコーディネーターなりをちゃんと設けて、そのテーマに沿っていろいろ議論をして、なるべく具体的なアウトプットの取りまとめを目指す話し合いの場を定期的に設けていくということを進めていきたいなということです。

自由に議論というと、特に行政の方々は腰がひけていく傾向にあるのだろうと思いますので、あわせて、その下の参考というところに「3つの原則、7つのルール」というのをつけました。そういう話し合いの場の中ではちょっと有名な考え方ですけれども、下のほうにあります、公的な見解にしないとか、特定の個人や団体のつるし上げを行わないとか、そのようなこともあらかじめルールとして確認をしておいて、その話し合いを進めていくというようなことで、行政の皆さんはもちろん、市民の皆さんにも意識を持って話し合いに臨んでもらう場にしてはどうかということです。

これでなければならないという意味ではなくて、こういう場をたくさん設けていくことが必要だろうなと僕は思っていて、前期か前々期かちょっと忘れたのですが、参加型の職員研修を、市民が入ってくる職員研修をやったらいいのではないかという話をさせていただいたことがあるんですが、それも考え方としては同じです。職員研修の中に市民が入っちゃって一緒にやってしまうというようなことを提案したことがあるのですが、できるのであればそういうことはそういうことでやっておいて、こういう市民の懇談会みたいなものもまた別の場でやって、幾つも進めていくことが大事なんじゃないかなと思っています。

◎西尾委員長 ありがとうございます。この「3つの原則、7つのルール」は大変参考になるなと思います。

◎渡邊副委員長 せっかくなので1点だけ確認させてください。この懇談会というのは、いわゆる市長のタウンミーティングとは全く違い、行政のいろいろなスタッフの方々が参加して懇談するようなものでしょうか。

◎五島委員 基本的には誰でもOKというものです。もちろん市長がそこにいてもいいと思いますけれど、でも市長の発言に重きを置くということではなくて。

◎渡邊副委員長 ないということですね。市長がもし参加しても、あくまで一個人。

◎五島委員 一個人として参加していただくということです。

◎西尾委員長 市長はまだ就任されて間もなく、どのように考えているのかなと思いますが。

◎五島委員 やるのだったら今のうちだと思いますけど。

◎西尾委員長 職員研修は例として言われたのでしょうか。研修というのは少し市民参加とは別世界に感じます。

◎五島委員 市民の意見を聞くと大変という意識が職員の皆さんには絶対あると思うので、そ

こは、もちろんそういうこともあります。お互いがお互いに大丈夫なんだと思って、それからじゃないと具体的な議論にならないのではないかなと思うので、信頼関係をまず作るためにそういう機会なり何なりを作っていたほうがよいと思う。

◎西尾委員長 国の、人事院がやっている課長補佐研修に私も以前行ったことがあります。そこには民間企業と新聞記者がいて、大丈夫かなと思いましたが、新聞記者の方はここだけの話ということで、自由に議論して、親しくなり、関係が続いていくということなので、一定のルールはかなり大事だろうと思います。

いろいろ参考になるお話をありがとうございました。

それでは、佐久間委員、お願いいたします。

◎佐久間委員 非常に素人考えで書いてしまってお恥ずかしいんですが、小金井市というのをどういう特色を打ち出すかということを見ると、日本一安全な市とかということを考えるんですけども、そのことの議題の中で細かいいろいろなことが入ってくると思うんですが、そのそれぞれのものによって興味がある年代の方がいろいろ違うことになると思うので、ワークショップとかそういったところで具体的な内容に興味がある方を集めて研究とか話し合っただく、それで小金井市をそのようなまちにしていければというふうに……。皆さんの立場とちょっと違う、完全に市民的立場みたいになってしまっていますけれども、一応そういうことで書かせてもらいました。

◎西尾委員長 市民が参加するのは市民参加について議論するというよりも具体的なまちづくりのテーマだろうと思います。これもテーマの候補になると思います。いろいろ挙げられていますが、特に思いの深いものとかありますか。

◎佐久間委員 やはり防犯対策ですかね。細かい見回りとか、防犯カメラとか、全般的にどうしたらそういう防犯ということができていくかということが今は一番興味があります。

◎西尾委員長 ありがとうございます。これからテーマを議論していくときに参考にさせていただきます。

それでは、三輪委員、なかなか印象的なメモですがお願いします。

◎三輪委員 本当にメモという感じで書かせていただいたんですけど、前回、第5期までで若者市民参加というところが欠けていたもので、若者の、特に大学生を対象として考えたんですけど、具体的なワークショップを提案できたらいいかなと思って書いてみました。

私がどんなワークショップを想像したかという、1回だけただ集まるとかではなくて、何回か、例えば2カ月の間でやるとか、そういう何回か重ねるようなもので、ただ参加者として来るんじゃないで、自分から動いてみることもつながるようなワークショップのほうが、これからいろんな議題があるとは思いますが、そういうところに参加してみるきっかけにはなりやすいかなと思って、このようなものを提案してみました。メンバーを変えて何回か続いていくようなワークショップを想像してみました。

◎西尾委員長 何かこれはゴールがあるのでしょうか。

◎三輪委員 1回1回、ワークショップ、例えば2か月とかでやって、最終的にそこで話し合ったりいろいろ見てお話を聞いたりしたことを何かの形でまとめる必要があるのかなと思って、そのときに自分たちのやったことがどういうふうに発表できるとか反映できるのかなと思ったときに、市長にお話しする機会があれば一番わかりやすいのかなと思って書いてみました。あとは、それをネットとかSNS、広報とかチラシで、その中で終わらせるのではなくて、周りに広げられるようなことができたほうがいいのかという感じで書いてみました。

◎西尾委員長 ありがとうございます。何か皆さんからご質問などありますか。

実は面倒なこと、耳の痛い話というのは、なかなか良いと思います。

それでは、大久保委員、お願いいたします。

◎大久保委員 皆さんおっしゃられたのに近いんですけども、青少年を対象にした勉強会やワークショップを行うことがいいのではないかと考えています。ちょっとここで僕の理想的なところをいいますと、行政に対する要望で終わるのではなくて、私たち一市民としてどういった貢献ができるのか、どういった参加ができるのかまで議論が進めばうれしいと思います。

2点目なんですけれども、各審議会の構成メンバーの声かけ状況というか、団体に偏りがあるのかどうかというところが少し気になっていまして、僕なんかも青年会議所とかいろいろな団体に所属しているんですけども、たくさん要望をいただくのはいいと思っているんですけども、若干偏りがあるのはどうなのかなと、もし偏りがあつたら少し直す必要があるかなと思っています。

それに関連して、ちょっと今、小金井市のホームページが新しくなって、まだそこでは確認してないんですけども、以前のホームページに市民団体リストみたいなものがエクセルでついていまして、あれは古いままで全く更新されてないのではないかと思いますので、市内にどういった団体があつて、どういうサークルがあつて、どういった構成メンバーでやっているか、そういったリストがあると市民会議や各審議会に声かけするときに便利ではないかと思います。

◎西尾委員長 ありがとうございます。何かご質問などありますでしょうか。

◎渡邊副委員長 真ん中のところ、各審議会の構成メンバーの偏りという点はとても重要で、私自身も、国などの審議会においてメンバーを見ると答えがわかるというのはよくある話です。ただ、大久保委員が具体的なこういった問題があるということを感じられて提案をされているのか、現状はよくわからないがとりあえずチェックをしていただきたいという形で提案されているのが読めませんでした。これはすごく難しいと思うんですね。その偏りって何をもって偏りとするか難しいところもありますので、どういった背景からご提案されたのかももう少し伺いできればと思います。

◎大久保委員 僕、今は一般の参加ですけど、青年会議所に所属していまして、大体決まった審議会から毎年のように更新のたびに声がかかってきているんですよ。つながり、連続性があるという意味ではいいかもしれないんですけども、ほかにどういった団体に声をかけられているのかなというのが全く見えてきていないので、もしほかの審議会でもこういうことがある

のであれば、固定的なメンバーになりつつあるのかなというのを少し懸念しています。

◎西尾委員長 この委員会も市民団体代表という形ですか、考え方ってどんなふうになっていますか。もしお答えがあれば。

◎事務局 今回はJ Cと、五島委員のひ・ろ・こらぼと、あと辞職された田中委員の雑学大学です。市民参加推進会議では公募の形をとっているのですが、いろいろな団体さんを幅広く受け入れることができますが、福祉関係や医療関係では、専門の枠があります。例えば、市内の福祉の事業所や団体にしか声をかけないとか、偏りが感じられる部分はそこにあるのかなと思っています。経済関係でも商工会が多く関わっているので、そういった部分でも附属機関の性質によって一部の団体が多くなる傾向があるかなと思っています。

◎西尾委員長 町会は市民団体代表に入りますか。

◎事務局 団体の定義をしているかどうかは確認しないとわかりません。

◎西尾委員長 非常に興味深い論点だと思います。少なくとも文面で見ると納得して見えますが、それは適切に選ばれているとは思いますが、市民から見るとどういうふうを選んでいいのかというのはわかりません。

いただいたものは以上ですが、原委員、山下委員からも、今聞かれて思いついたことや自身で何か考えたことがあれば、いかがでしょうか。

◎原委員 私は今、目の手術を両方しまして、本当は小さい字が見えなくて眼鏡を作るのに2か月ぐらいかかるということです。いただいた資料も一生懸命読んできましたが、このレポートは出せませんでした。字はあまり書けないし、パソコンとかもできないので話させていただけます。

ワークショップという単語が色々な方から出ていますが、私たちが思いもよらないことが若者の提案から出てくることもありまして、これは貫井北センターの運営がNPO法人に委託されて、そして、このところやっと若者の何かができるようになったという話で、その理事長をしていらっしゃる倉橋さんという人にどうしたらそういうことができるかいろいろ聞きまして、ワークショップとかそういうのをやろうという提案がすごくあるんだけどという話をしたら、それはいいけど、ワークショップをするのに人を何て言って集めるのって言われて、その事前のことがまずできないと次の話はないんじゃないと言われました。

大久保さんがおっしゃった青少年を対象とした勉強会というのは、例えばどういうふうに青少年を集めて、どんな勉強会がいいと思っていらっしゃるのかなというのが1つ聞きたいことと、もう一つは、サークルのリスト化を行うということを書いていますけれども、団体というかサークルの人はほとんど公民館とか何かを使っています、何て言うのかな、私も使っているんですけど、名簿録みたいなのが公民館にあるんですよ。例えば東センター、何やらセンターとか、そこで、うちの場合だったら、元気会というんですけど、元気会というところは何年に設立されて、メンバーが何人で、どういうことをしているとか、講師謝礼が要るとか要らないとか、うちの場合だったら会費500円、昼食を自分たちで作って食べる、そのときにいろん

な話し合いをすとか、そういう概略的な内訳を書いた一覧表の本があります。それをご覧になると、このリスト化するというのは大体書けるんじゃないかなと思いました。今度見てみてください。

そこらのサークルをやっている人たちに、何かこういうことを考えてくれないとかいうものがある、やっぱり人を集めるというのは、彼女がおっしゃったように、ワークショップするために人を何て言って集めるんですかというところが一番難しいと思うんですね。チラシではもう人は集まらないというか。この間、日曜日に、ここの会じゃないですけど、企画されて、小金井市のいろんな人口問題とか何かの勉強会みたいなのを皆さんのところにファクスか手紙がありまして、でも、ほとんどいつも知っているメンバーが何人かいて、スタッフのほうはすごく多くて、これだけのことを大がかりにするのにこの人数じゃものすごくもったいないけど、そもそもどこへどういうふうにビラをまいたんだろうと行って、その後、何人かで終わった後お茶飲みながらさんざん批判していました。

だから、やっぱり人集めというのが一番大変だと思います。悪い言葉でいうと、一本釣りとか何と言うか、個人的にこういうのをやってみないとかないと、チラシで誰か来るといったって、よっぽど自分に得か損か何かがかからない限りは来ないと思います。そこらをちゃんと考えないと、次のステップは難しいと私は思っています。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。では、山下委員。

◎山下委員 先ほど大久保委員から名前が出ている青年会議所の団体枠は私のほうでして、そちらの立場のほうのお話をさせていただければと思いますが、まず、私もこの会議に何期か出させていただいている中で思っているのは、何をもって市民参加とすべきかという定義が少し曖昧なのかなというふうに感じているところがあります。それで、小金井市内の現状を見ると、市民活動に熱心な方が非常に多い行政なんだなと。近隣行政との交流も青年会議所として持っていますので、そういった中で小金井市の人たちは元気あるね、なんていうお声をよくいただくというふうにはいる一方で、それについてはごく一部の方々が熱心で、その一部の方が少し多いレベルなのかなと個人的には感じております。

私たち青年会議所としては、市民参加になるかわからないんですが、主なものとして公開討論会ですとか、あとキッズカーニバルという子育て支援に関するイベントをさせていただいているんですが、そこに参加していただいている方も子育て支援団体を知って、そこで活動すれば市民参加になるのか、はたまた公開討論会についてもお越しいただいて投票していただければ、それが市民参加になるのかどうかという論点もあるかと思えます。

特に公開討論会、投票率が低いので候補者の生の声を聞いていただくということで開催をさせていただいているんですが、そもそも日本において選挙権というのが、できてまだ100年くらいと。一般市民に認められたのが戦後という状況だという話をこの前とある方からお聞きしまして、ここ最近、選挙法が変わって18歳から、次の選挙、国政でも何でも投票できるようになるというところで、実は若者の市民参加というのはもう自動的に国のほうからおりて

きてしまっている状況だというふうに感じています。

今度何をすればいいのかと私の中で今考えているというか思ったところは、市民参加を若者がしてくれないんだったら、その若者になる前の小中学生に市民参加をしていく意識の醸成を働きかける。ですから、今現状の若者の市民参加はもちろん必要だと思うのでそれをやりつつ、将来の若者になる人たちへの市民参加の意識醸成もあわせて行っていくべきではないかなと、そのようなお話を皆さんとできればと思いました。

◎西尾委員長 将来の若者である小中学生ですね。何かご意見ありますでしょうか。

◎原委員 今のお話を伺ってですけれども、さっき言ったその後の雑談の中で、その講演会の中で、大学と小学校の交流をしている学校が2校なんですって。小金井は大学がいっぱいあるでしょう。それをもっと増やして、私は今回のテーマは、若者を引っ張り出そうみたいなのがテーマだと私の中では思っているんですね。そういう交流を増やして子どもを、小さい子も大学生も、より親しくなって、そこで私らも含めて小金井をどうしよう、どんなまちがいいかねという感じにもっていったらいいから、そういう交流する学校をたくさん増やしてほしいという話にしたんですけどね。それは市長あたりが動いてくれないと、一般の人が言っても、大学自体が、ややこしいことを言ってくれるなみたいな感じで、もう門前払いがおちだよというようなことを言ってらっしゃいました。

それともう一つは、その子たちが頑張ろうといったときに、大学生というのは小金井市からいなくなっちゃうことが多いし、そういうのも考えて構成組んだらいいよとかいう話を貫井北センターの人はしてくださいました。

◎西尾委員長 ありがとうございます。私は皆さんの提案を見て、大きく外れないところでの私からの提案は、次のことです。第5期の提言の(1)の実施に向けて、具体的な手順・方法を検討することです。先程、原委員がおっしゃったように、難しいということを言われましたが、難しければ難しいことがどうやったら実現するかの手順を考えるということだと思います。手順・方法というのは時間軸でどういう順番でやっていくか、それから、どういう方策を使うかということで、テーマの選び方もありますし、開催するときはルールの作り方、大久保委員が言われた、それも非常に重要なポイントになるだろうと思います。

それから、行政がどういうことをするのかということも大事ですが、提言の(1)を読みますと、1～2年以内に実現すべき参加推進の短期的課題として、地域の個別テーマについて学び、ともに考え、話し合うための若者中心のワークショップ(参加型の学習会)を複数回開催するということです。渡邊副委員長の言われた社会参加的なところが少しあり、直ちに市政についての提言をするとか、行政の政策について意見を言うよりも、少し全体感のイメージを公共的な問題について、幸せとは何だろうかとか、あまり哲学的な話ではなく、地域の課題について、地域の市民だけの課題もあるが、そこに行政がかかわる問題もあり、参加につながるテーマで考えた、ワークショップをやることで、そこから市民参加という本来のテーマにつなげるような工夫ができないかなということ。これは去年の段階で1～2年ですから、そろそ

る1年経ってしまいますので、少し早めに動く必要があるかと思っています。

二人の委員は行政のほうから参加されていますので、一市民として語ってくださっても結構ですが、こういういろいろなアイデアが出たところで、感想・提案を一度伺えればと思います。

◎**河野委員** 事務局の企画政策課がやったワークショップですが、第4次基本構想・後期基本計画の策定の際に1度、ワールドカフェという形で、テーブルに分かれて気軽に話していただき、小金井市をどんなまちにしたいかということを考えていただきました。模造紙を置いて皆さんでそれぞれ模造紙に考えや課題を書き、長期計画審議会の委員がそれを最終的にいただいた意見ということで取りまとめ、発表するという形で実施をしております。参加した方々もご高齢の方もお若い方もいらっしゃるということで、年代もある程度バランスがとれていたと思います。通常の説明会よりも参加しやすく話しやすいということで、非常に好評いただいたということがございます。

今後、様々なテーマでワークショップを実施していくということは、各所管との調整、それぞれの事業担当との調整も入ってくるかと思っています。こちらの推進会議の中では、やはりワークショップの手法ですとか、先ほど人を集めるのが難しいというお話もいただいたところですので、どのような形で集めていったほうがいいのか、マニュアルのようなものをご提言いただければ非常にありがたいかなと考えています。その中で、ご意見いただいておりますファシリテーターの育成などについても盛り込んでいければ、より活性化ができるかなと思っています。

◎**西尾委員長** ありがとうございます。

◎**天野委員** まず、感想ですが、私はどうしても狭く考えてしまいますが多様なご意見をいただいて非常にありがたいと思っています。その中でも、私は総務部長ということで、人材育成も担当しておりますので、職員の中での市民参加を推進するという意味におきましてもコーディネート力やファシリテーター能力は望まれているので、興味を持ちました。

それから、おもしろいと思いましたが、18歳から選挙権があるという状況の中で、将来の若者ということで子どもという話がありました。例えば、子ども向けの市民参加のパンフレットをこういった場で作ったらおもしろいと思いましたが。それも感想でございます。

それで、以前、私も企画政策課におりまして、企画政策課長をさせていただきました。市民参加推進会議を担当していましたが、そのときに市民参加の手法ということでパブリックコメントのマニュアルを作ったことがございます。背景とすれば、当時、企画政策課のほうでは大きな計画を作っており、さまざまな市民参加をやってございまして、ただ、市民参加条例のほうで規定されていることは審議会や意向調査、アンケート、パブリックコメント、市民投票というものは書いてありますが、市民参加の手法というのはたくさんあると思っています。そういった手法を、どのようなケースのときにどのように市民参加を使うのかというのが私は当時思っておりまして、その中の第一弾という意味合いも込めましてパブリックコメントのマニュアルを皆さんと一緒に作っていただくということをやりました。そういった市民参加の一定のルールを作ることにより、さらなる市民参加を促進してまいりたいという意味合いも込めまし

て、マニュアルを作りましたが、先ほど企画財政部長がおっしゃったようなことは私もいいのではないかなと思うところでございます。

◎西尾委員長 ありがとうございます。今伺っていると、賛同されたのではないかなと思います。色々なことを提案していますが、それをマニュアルのような、参加が促進するノウハウをここで考えていくということです。ワールドカフェは、マニュアルのような手順はありましたか。

◎河野委員 この時はマニュアルを作って実施したものではございません。コンサルも入っていたので、ご意見を参考にしながら実施をした形になります。

◎西尾委員長 あと5分ぐらいで休憩をとりたいと思いますが、一巡したところでもう一言発言・質問があれば、聞いてから休憩に入りたいと思いますが、いかがでしょうか。

◎一山委員 行程表がございますので、いいお話はいっぱいやりたいですけど、そろそろ焦点を絞らないと多分まとまらないと思いますので、後半またぜひ。

◎西尾委員長 全てやるのではなくて、フォーカスを絞らないといけませんね。

◎一山委員 そうすると、初回、せっかく第5期の提言の進捗状況の確認とか、若者に絞ろうといったのが、正直いってフォーカスがかなりずれているんじゃないかと思って、広げ過ぎじゃないかと。

◎西尾委員長 今でしょうか。

◎一山委員 はい。

◎西尾委員長 ありがとうございます。今日限りで広げるのは終わる感じかと思います。これから休憩後、絞っていききたいと思います。事務局にお伺いしたいことは、次第にあります26条と27条ですが、この枠の中でやるということで、会議がワークショップをやるということがあるかどうかと、そうではなく、会議はやはり市長に提言をするのであくまで我々はタッチしないということなのか。それから、パンフレットの作成でも、ワークショップやワールドカフェを実施するにしても予算がかかるとは思います。その点はどうなるのか。この行程表との絡みで、我々は何をすべきで何をすべきでないかについて、枠の提示について事務局からご説明願います。

◎事務局 基本的にはこの第27条の中の範囲かと思います。前回は説明をさせていただきましたが、協働については市民協働の別の委員会が立ち上がっていますので、基本的に推進会議では市民参加のお話がメインかと思います。

この推進会議がワークショップをやるかどうかというお話ですが、基本は市民参加の推進についての議論がメインだと思っておりますので、ワークショップそのものをやるというのはそぐわないイメージでいます。何かやるのであれば市民参加を推進するための手法やワークショップの手法を検討する中で、試しに検討している手法に基づいてワークショップを実施したらどのような形になるのかというような、試しでワークショップを実施するならよいかと思いますが、それ以外の方法だと、どのようにこの範囲内でできるのか、議論が必要かと思っていま

す。

予算ですが、基本的には年1回予算を市では作っております。予算の編成が始まりますのが10月頃ですので、今年度は難しいと思いますが、29年度の予算編成に向けてという形になりますと、28年の7月頃、第4回目の頃だと予算要求には間に合う時期かと思っておりますので、それまでには一定の方向性などをかためていただいて、こういう予算をつけるように市で努力してくださいというような文書をいただければ、予算要求がしやすくなるかと思っております。

◎西尾委員長 ありがとうございます。今までこの会議は中間の文書を出したことはないのでしょうか。中間文書を出してもいいと思っております。

◎事務局 正式な中間提言ではなく、正式な提言をいただいたことはあります。

◎西尾委員長 来年度何かやるために、7月ぐらいまでに具体的などころまでできれば、中間提言をやることもあり得るだろうと思っております。それをしないと、来年度、何も動かないということにもなりかねないので、考えていきたいと思っております。

それから、試しに実施するということが、平成29年度でしょうか。

◎事務局 そうです。その他、予算をかけないでどこまでできるかという議論も必要なのかと思っております。

◎西尾委員長 市民参加の予算がなくても幾らでも参加しようと思えば幾らでも参加してくれると思いますが、そういうときは、公務員は行政市民ということで、公務員市民として手弁当で参加するというところもあると思っております。

このようなことも含めて、後半にまたこの中からどんなふうにテーマを絞るか議論を進めたいと思っております。ここで5分休憩をとりたいと思っております。

(休 憩)

◎西尾委員長 再開したいと思っておりますが、五島委員から配られたので、簡単にご説明をいただければと思っております。

◎五島委員 ぜひ皆さん、広報していただければと思って持ってきたのですが、武蔵小金井の北口の小金井街道沿いの商店会、小金井市商業振興会で、この3月に5回目をやります。こども店長みたいなことをやるんですが、何をやらしてもらいますか、何人受け入れますかというのを、先に店を募って、それでこれを作って、今、子どもたちを集めている、募集している最中です。この中の申込用紙に第3希望まで書いてもらって、受けて、どの子を、クラウンベーカーリーさんをお願いしようかということをごちら事務方で調整をして、事前に顔合わせをして、その店の人と子どもたちを会わせて、当日やらしてもらおうことを説明してお手伝いをやります。

渡邊委員の言葉で言うと、行政が絡んでいないので、社会参加の場だろうと思っておりますけれども、すごく人数的には少ないとは思いますが、濃度はかなり高いと思っております。商店会長さんと話をしてこういう形になったんですけども、これをやっても直接その日の売り上げにつながるわけではなくて、5年後とか10年後の顧客獲得につながり、「小学校のときにあそこのパン屋さんで働いたことがあるんだよ」と友達に言えるような環境を作っていきたいなど

いうことを想定しています。

ここの先ほどの前半のお話で、ほかの方も同様のことを書かれていますけれども、場を作るのはいいけれども、そういうテーマを設定することで、そのテーマに関心のある人が寄ってくるのか。ですから、なるべく具体的なテーマを設定したほうがいいだろうなというふうには思います。

◎西尾委員長 ありがとうございます。

◎原委員 すみません、小平でこれ、学校が1日体験というのでやるんですよ。子どもたちが、例えばうちの子がここへ行くと、みんなが見がてら、買い物が見がてら行くんです。1日の売り上げにかかわる。すっかり子どもたちがパン屋さんに行って気に入って、「私が大きくなったらパン屋さんになろう」とか。これ、学校でやっていますよ。

◎五島委員 中学校だと授業の中であるんですけども、小学生を対象というのはない。これは申し込みでやっていますけれども、先日、国分寺では、当日受け付けで、限られた時間ですけども、そういう店舗で子どもがちょっと手伝いをするというものはやっていました。それも同じようにやり方はいろいろあるんだろうと思います。

◎西尾委員長 市の事業の中に商店街活性化があります。大体どこも多かれ少なかれ行っているかと思いますが。

◎五島委員 産業振興プランというのがあります。

◎西尾委員長 なかなかうまくいかになく日本中で苦勞しています。きっかけにもなるので、社会参加が市民参加の契機になる一つのテーマかもしれません。ありがとうございました。

いきなり私がまとめるのもなんですが、第5期の提言の1の若者中心でワークショップを開くということには、非常に賛同が多いと感じますけど、これを一つの柱にするということで、周辺的に方向の一つ考えてみるというのはいかがでしょうか。今、私も拝見しながら、例えば審議会の構成メンバーを少し検証するというのは、それとは別なテーマとして、やってみることはおもしろいと思いますので、大きな柱は1つでも、それ以外に複数の関連するものが幾つかあってもいいかと思います。ワークショップの話から進めてよろしいでしょうか。反対ならば声も上げていただければと思います。時間も限りがありますので、若者中心のワークショップを具体化させるということの一つの柱を進めるということで、大きな異議がなければ、話を進めていただければと思います。

その際、早くても平成29年の春頃に、何かイベントをやるとすると、総務、企画、財政の面で言いますと、お金さえかからなければ、来年度の平成28年度でも4月に提言して、その年度のうちに何かやることは可能でしょうか。松戸市ではすぐやる課というのがあり、すぐやるべきことで、すぐできることは、すぐやりますということで、全国にすぐやる課ができたことがあります。小さい項目なら意外と早くできることもあるのではないかと思います。どうでしょうか。

◎河野委員 どういう項目立てがされるかによって、すぐできるようなことと、少しお時間を

いただくことは出てきてしまうかと思いますが、ワークショップなどをどこかの事業課で実施という形になりますと、それぞれの事業課でワークショップを行うものがあるか、調整が必要になってくる部分があります。28年度の状況では、企画政策課でも、ワークショップの実施予定のものがありますので、そこでアイデアや提言をいただければ、反映できる部分はあるかと思えます。

◎西尾委員長 具体的にはどのようなものですか。

◎河野委員 男女共同参画行動計画と、公共施設等総合管理計画ですが、現在、並行して策定している状況ですので、そちらで市民参加を実施し、ご意見をいただくということはあるかと思えますが、スケジュール感がどうリンクしてくるかという部分もあります。

◎西尾委員長 男女共同参画はどのように考えられているのですか。

◎事務局 関係附属機関としては、男女平等推進審議会です。行動計画がありますが、その改定年度が来年度になります。その計画を今年度から策定を開始していますが、今年度と28年度で計画を作る予定になっており、その中で市民懇談会を予定しております。しかし、市民懇談会も男女平等推進審議会が企画をしますので、こちらからの意見をどれだけ反映できるかが課題だと思います。

◎原委員 今ありましたように、若者というのはどれぐらいの世代を言っているんですか。

◎西尾委員長 高校生から40歳ぐらいです。

◎原委員 高校生からですか。

◎西尾委員長 そうです。

◎原委員 悪い言い方をすれば、ターゲットですけれども、例えば高校生ぐらいの人をというときは、高校生の子にピラを書かせるんですって。すごくうまいよって言っていた。絵を描いたり、題なんか書いたりして。そういう小金井の子どもたちだったら、自分も高校生だから、友達も高校生がいるわけですよ、地元。必ず「こんなことするけど手伝って」って、仲間を呼んでくるんですって。そこらでどうでもないこうでもないってやって、私らは聞く側に回って、「そうだね、こうだね」とか横やり入れるぐらいで、チラシとか何かは、行政の作るチラシは難しくて、見ただけで行きたくないって言っていました。

◎西尾委員長 チラシが有効でないというのは世の中の常識になっていると思います。1,000枚配ったって、それで来るのはわずかです。

◎原委員 そういうのってすごく楽しいし、よくわかるしって言っていましたよ。だから、やろうっていうと、どのぐらいの人を若者とやっているのかによって書き方が違う。同じ呼びかけでも。

◎西尾委員長 気持ち若い人というように、あえて線を引く必要もないと思いますが、おおむねでいいと思います。

◎原委員 でないと書き方が違うって言っていましたよ。

◎西尾委員長 万年青年を含むとかでしょうか。

もとに戻りますが、市民参加はこの会議ができて四十何回やっており、6期ですので、10年余りやっているわけですので、当然、いろいろなところで参加の手法やプランを作っており、何も白地に書くということではなく、具体化されているものを参考にしながらアイデアを提供するというところもあると思いますし、我々が全く新しい参加について考えなければいけないということではないと思います。

男女平等推進と、もう一つは施設ですか。

◎河野委員 公共施設の総合管理計画です。

◎西尾委員長 総合管理計画。それはどのようなものでしょうか。

◎河野委員 市が所有している施設でインフラも含め長寿命化も見据えて、財源の平準化等管理に関する基本的な考え方を示す計画を作る形になります。

◎西尾委員長 どのような人たちが参加しますか。

◎河野委員 まだそこまでには至っていませんが、平成29年3月に策定する予定です。

◎西尾委員長 なるほど。施設というのは誰もが利用するものです。利用のルールもありますし、何か新しいものができるのであれば、必ず市民の関心を強く引くでしょう。例えば小学校の建替えは、三鷹の子どもが参加し、アイデアを出していました。1つの全体的な考え方への参加もあれば、個別の建物についての参加もあり、色々なアイデアが役立てるのではないかと思います。

◎五島委員 委員長に質問ですが、委員長がイメージされているというものは、ここがワークショップを企画運営するのではなくて、今ある利用者と行政が予定している参加、参画の場にこのメンバーがかかわるといったイメージでしょうか。

◎西尾委員長 やはり考える人間が実践すると細かいところまでイメージできるのでやりやすいことがありますが、それはやり過ぎかもしれません。

◎五島委員 であれば、これもやり過ぎかもしれないけど、ここがそれなりのテーマを設定して、試行でもいいけれども、時期も含めて想定して、そういう場を作ってみるといったのは、個人的にはモチベーションも上がりますが。

◎西尾委員長 そうですね。何か企画と実施の分離が、80年代から世界に浸透している動きですけど、エージェンシーとか外部化とか、企画をする人が実施したほうが良いというところも少なくないです。

ここは重要なポイントですが、何か事務局でも考えはありますか。あくまで具体的な提言でしょうか。ワークショップをする方向が今回決定されると、ワークショップは誰がやるのでしょうか。

◎五島委員 ワークショップのためにワークショップをやっていたらだめだと思うので、何かしらの具体的なアウトプット、これを作る、まとめるためのワークショップは手法なので、幾らやっても答えは出ないので、やっぱり何をまとめるのかをちゃんと想定をしないと行けないと思うので、それが必要だと思います。それは今、先ほど出た男女共同参画のことであれば、

それだったらいいですけども。

◎一山委員 よろしいですか。ワークショップやるとか具体的なことを言う前に、中身を考えていないから手法に走るんだと思います。もともと事務局から、ここはワークショップの実現とか実施とかは範疇の外だという話なので、提言止まりかもしれませんが、せっかくいろいろアイデアも出たので、それをまとめていくということと、それから、初回もそうですけれども、先ほどの時間の最後に申し上げましたけれども、守備範囲を明確にしないと、何をやっているのか、大事なことはいっぱいありますけれども、若者のテーマでやっていくんだったら、その中でこれをやる、やらないというのを取捨選択されたほうがよいのではないかと思います。それに副次的に構成メンバーのことについて少し言及されるとか、あるいはまとめるというぐらいでないと、結局、今日もこの時間帯で終わる時間が9時ですから、残り30分で何ができるのかというふうに非常に心配しています。

◎西尾委員長 完全につかみ切れていないところもありますが、守備範囲をまず明らかにするというのでしょうか。

◎一山委員 ええ、というか、ワークショップを実施するとか何かするというのは、この我々の会議ではやるべきことではないという説明があったわけですよ、事務局のほうから。実際、実施するということでは違うかなど。我々は市民参加の推進がメインで、できたとしてもお試的なものということをおっしゃっておられたので、だとしたら、いろいろなところの今やりかけのやつに途中から参加して、ああしろ、こうしろというのも、やはりおかしな話で。

◎西尾委員長 そうですね、おかしな話なのかどうかは私も何とも言えません。

◎一山委員 というか、実施するほうと考えるほうが分離してということではなくて、やはり考えた人が実施したほうがいいというお話ですよ。だけど、我々は実行権がないわけですから、だとしたら、意見もせっかく出てきて幾つかあって、しかも我々は引き継いで、前のやつをどうするかという話なので。

◎西尾委員長 それもちろん決まっているわけではないですが、個人的には気持ちはありますけれども、それを確認する必要があるかと思っているわけです。

◎一山委員 ぜひお願いします。

◎大久保委員 先ほど少し原委員とも話していたのですけれども、確かにワークショップというのは1つの手法でしかないので、いかに広い一般市民の方から継続的にどうやって意見を出してもらおうか、意見を求めるかというのがすごく大事だと思っていて、ワークショップをしたけれども、行ってみたらほとんど市民の人がいないという状況があるらしいので、常にワークショップが満員になるような、満員とは言いませんけれども、開催すれば、ある程度箱が埋まるような、そのためには例えば広報をどうするんだとか、そういった道筋みたいなものをこの提言の中でまとめて、こういった手法がいいんじゃないか、例えば学生はこういうふうに集めたほうがいいんじゃないかとか、そういった手法までの道筋を少し作ればいいのではないかと思います。

◎西尾委員長 そのほかはありますか。道筋を明らかにする手法を言葉にして、それに従えばうまく進むようなものを考えるということですね。

◎山下委員 私のほうで思うのは、この市民参加推進会議に何期か出させていただいている中で、今、多分、五島委員が一番続けてだと思えるのですけれども、人がかわれば議論の内容が変わって、また新しい発想になるので、今回参加している委員の皆様で若者の市民参加について話し合うことが一番大事なのかなと思っています。というのも、毎回このテーマになるということは、若者の市民参加が達成されていないということなので毎回このテーマになって、どうしようということを各期で議論しているわけですから、それについて私もしっかりとした議論をした上で、具体的な方策が出てきたら、それを試してみようという道筋がいいのではないかなと思います。

◎西尾委員長 前期から多少引き継いでいるようなところもありますが、新しいメンバーですので、全く新しい気持ちで発言やご提案をいただいていると思います。

今日は議題としてテーマを決めるということで、あと30分を切っていますが、幾つか決めていきたいと思っています。例えば渡邊副委員長からファシリテーターの養成ということがありました。ファシリテーターがいると、集まったとき、抽出度が違ってくるといったことだと思いますが、市民の意見をまとめたり、同じ人間が集まっても、効果が高まるということだと思いますが、この手順みたいなものも議論の1つです。

◎渡邊副委員長 はい。おそらくここで具体的な何かを1回やったとしても、1回で終わってしまうわけです。2年後に1回やったとしても、それで終わってしまって、市民参加推進会議で常設的にワークショップを行っていくというわけではないので、あくまで試行的なものになります。なぜファシリテーションの育成のことを提案したかという、ある種マニュアルなのかどうかかわからないのですけれども、ノウハウ的なものだと思うのですが、そういった人材育成を継続的にできる仕組みを作っておくことが、今後の市民参加の推進のところへつながっていくだろうという意図でこちらを提案しております。

例えばそれを我々が具体的に、あるワークショップなどを通して実現しても構わないですし、ほかの企画にジョインしても構わないのです。先ほど河野委員からワールドカフェをやったという形、ワールドカフェはまず1つの手法ですよ。あくまで手法にすぎないわけで、そういったものをどうやったらうまくマネジメントできるのだろうか、それが特に若者に響くようなマネジメントのあり方は何があるのだろうか。そういったノウハウを提供し、例えばいろいろな部署がワークショップをやっているの、端的に言うと、そこに周知していく。それが多分、長期的な意味での市民参加の推進につながるだろうということを考えています。なので、若干抽象的な書きぶりになってはいますが、あくまで、この会議は長くても3年で終わってしまうわけなのですが、そこで作り出したものがほかにもつながっていくような仕組みを我々として提案していったほうがいいのではないかと考えています。

これがファシリテーターであり、例えば五島委員がご提案されたような原則とかルールとい

ったものを、常にいろいろなワークショップでやる時には確認していくということも1つの方法かもしれないです。ただし、あまり固くやり過ぎると、「じゃ、いいや」となるので、若者に響く原則とかルールの表現とか、何があるのだろうと、そういったことをちゃんと考えていくのもありなのかなと思っております。

あともう一点、ワークショップなどを開くときに具体的なゴールを見せておくことがすごく重要です。例えば三輪委員が提案された市長との懇談というのも1つです。今の提言ですと、学習するという形になってしまっていて、そこまで学習したくないよという人がほとんどだと思いますね。でも、これをやると変わりますよと言われると、だったら興味がある人がいるかもしれないですね。ゴールの設定というのは、市のワークショップなんかでもすごく難しいのが、私たち議論をやりました、いいことを言った、でも、全然何も変わってなかったですよねとなっちゃうのはよくある話です。もちろん行政的にその場での議論の結論に完全に縛られるのは怖いというのもよくわかりますが、ワークショップをやったことによる提言が若者に響く形で、どういうゴールを設定するとみんなが参加したくなるのだろうということを具体的に考えて、おそらくいろいろなワークショップを今後ずっとやっていくので、そのときに、どういう出し方をすると、これまで参加しなかった若者が少しでも参加しやすくなるワークショップになるのかと、そういったあたりを1回具体的にやってみるというのはありなのかなと。やっていくと、やっぱり若者は参加しなかったよとなるかもしれませんが、それをやるのが、まさにマニュアルというか、手順とか実践の方法とか、ある意味、形式ですよ。そういったものを皆さんのいろいろな知恵を出し合って作り上げていくことがいいのかなと思っています。

◎西尾委員長 どうもありがとうございます。はい、どうぞ。

◎三輪委員 2点、いいですか。河野委員からあったワールドカフェ、まちづくりカフェのことでよろしいですか。それに、私は、参加させていただいたんですけども、そのときに、参加して各テーブルで話し合ったことがどうつながるのかなというのをすごく疑問に思っていて、多分、それでもうそのワークショップ自体は終わりですし、1つ想像としては、起草委員の方が各テーブルにファシリテーター役ですか、そういった形でもらっていたので、その方が、各アイデアで本当に響くものがあればそれを持ち帰って、新しい長期計画でしたっけ、その中で生かしてもらえるのかなという想像はあったのですけれども、本当にどうなるのか、最初の行くときもわからないですし、帰ってもわからなかったの、そこはやっぱり欲しいかなと思いました。

◎西尾委員長 テーマは何でやりましたか。

◎三輪委員 ワールドカフェで3ラウンドあって、何でしたっけ。覚えてないですけども、最初は小金井市の好きなどころとかそういうのがあったり。改善したいところだとか、そういう感じのと、あと、どういうふうにかかわれるかということ。

◎事務局 テーマは3つありまして、小金井ってどんなまち、未来の小金井をどんなまちにしたい、未来の小金井のために私たちにできることは何かというテーマで話し合っていました。

した。

◎西尾委員長 あんまり具体的ではないですね。

◎三輪委員 そうですね。あと、それに参加したことによって何がどうつながるといいうのも見づらいものだなと思っています。

◎西尾委員長 何年もかかりそうな感じですね。

◎佐久間委員 今のことに関して、手法みたいなことになっちゃいますが、私が書いたものの中で、さっきの防犯対策ですけれども、私が考えたのは、皆さんに地図とかを持っていただいて、お子さんとお母さんがそれぞれ危ない場所というのを回ってつけていただいて、それをまとめて1つの小金井市の大きな地図にして、例えばそれを市長とかに上げるとか、具体的にすれば、そうすると、すごくやる気が出てくるかなと思って書いたことはあります。例えば防犯で言えば、具体的に、私はここを歩いたけれども、ここが危ないわとかいうふうなことを、さっきのそれがどういうふうに上がったかわからないということはなくなるんですよ。小金井市の中でどこどこがより特に危ないとかというのが具体的に出てくるというのがあるかなと。

◎西尾委員長 防災でもまち歩きはよくありますが、ここで火が起こったらどうしようもない、消防車が入らないというような場所をみんなで歩くとか、これによりすぐ広がるわけではありませんが、確認するということはありますし、具体的なほうがいいと思います。自転車レーンが今、東八道路でできていますが、そのルールがなかなか決まらないので、車道に出たりすることもあります。三鷹の若者は商店街も盛り上がっています。このテーマは外国人がよく集まります。行政がそこにかかわるものもありますし、地域だけの問題もありますが、施設が新たにできるとなると、具体的に、絵が出てくると議論になると思うので、抽象的な議論もしないといけなく、実践は具体的なものではないかと思うので、テーマの例示はどこかで必要だろうと思います。何かを提案するにしても、何も腹案がなくて、こういう手法がどうかというのもわかりにくいのではないかと思います。

◎三輪委員 もう一点、いいですか。

◎西尾委員長 どうぞ。

◎三輪委員 ちょっと話が戻ってしまうんですが、さっきの続きで、ワールドカフェに参加したときに、参加するきっかけだったのは、無作為抽出で手紙が送られてきてという形で参加したんですけども、参加している人では若い人はほとんどいなくて、起草委員の方だったり、あとは多分、何かの関係者で集まった人ぐらいだったという印象があって、どういう人を集めるかというところだけに特化すれば、さっき挙げた男女平等だったり、公共施設だったり、市民を集めるというときの集め方のところだったら、例えばさっき原委員から話があったように、こういう広報をしたら、もうちょっと幅広い年齢層を集められるだとか、そういったことにつながると思うので、必ずしも自前のワークショップのためにどうするというわけではなくて、あるものの集め方の部分だけをとってきてというか、そういうかかわり方はあるのではないかと。

◎西尾委員長 一山委員の提案のツイッターやSNSというのは、そういうときにすごく有効ですね。

◎一山委員 というか、見てもらわないと困るので、それと、やはり自分はテーマを絞ったほうがいいというのが1番で、それから前の時間の話なので、それから、若者が集まらないんだったら、予算がないのでお金をかけられないですから、ツイッターで何かをするというのは別にお金がかかるわけではないと。それから、二番煎じという言葉もありますが、やはりうまくいっているやつをまねるとというのが3番とか4番とか、5番、6番はまだわかりますかね。

人数もこれしかいませんので、今、市の方がこんなにスタッフがたくさんいらっしゃるんで、いろいろ期待できるのかもしれませんが、青年会議所の方もいらっしゃるんで、若者を一応機軸にして何か考えてというだけのことで、本当に夢を売っていくのは自分もやりたいですけども、せっかくここまで積み上げてこられて、四十何回もやってこられたので、議論でいろいろなアイデアが出て、それはすばらしいというのももちろんすばらしいですけども、そろそろ何かを具体的に提言として出してやっていければと。

◎西尾委員長 そうですね。立派な虎の皮は幾つかあるような気がします。

◎一山委員 小金井市のツイッターってどなたが作っていらっしゃるんですか。

◎事務局 小金井のツイッターですが、今、安全・安心の関係をメインにしたツイッターはあります。安全・安心関係で何かあったときや、大雪のとき等に職員が発信をしています。

◎西尾委員長 2年前の大雪の日、2月のときはこの会議の日でしたね。キャンセルしましたけれど、ああいうときは有効ですね。

◎一山委員 職員の方がお作りになっていらっしゃるということですか。

◎事務局 そうです。

◎一山委員 で、トップ10はご覧になったことありますか。一番上は不動産屋さんなので、多分、自分たちでいろいろフォローをかけているんだと思いますけれども、小金井のトップ10というのがありますが。自分もそこはいつも見ていまして、何かないと小金井市のツイッターはあまり見ないという状況ですから、もし若者のこと云々であれば、フェイスブックも非常に有効と。ツイッターが有効ですので。

◎西尾委員長 フェイスブックはありますか。

◎事務局 フェイスブックはやっていません。

◎西尾委員長 フェイスブックは、お金がかかりませんから、やろうと思えばできると思いますが、手続的なものや、何を誰がやるかは決めるのが大変かもしれないですね。

◎渡邊副委員長 多分、フェイスブックとかツイッターには色々な見せ方があるんですけども、すごく大事なものは更新されることなんですね。結局、更新されないと興味をなくします。だけど、更新を定期的にしていくというのがすごく大変で努力が必要なことです。私も自分がいる自治体をフォローはしていますが、結構頑張って、毎日のように市長の動きを写真に撮って上げるとか、そういうある種涙ぐましい努力をして、それでも「いいね」が全然ないとかと

いうのをたくさん見るわけです。一応二、三十ぐらいいいねがあるんですけども。逆に言うと、定期的に更新ができる体制をきっちり作るか、ないしはもう専従班で、それこそ、きんちゃんを、遊びのような状況でも構わないぐらいにはっちゃけるか何かしないと難しいでしょう。SNSはあまり広がらないというのが私の印象で、やったほうがいいのはもちろん全くそのとおりなんですけれども、意外にすごく大変であるということは考えて、いろいろなデータをしっかり集めていく必要があるのかなと。なので、実際、お金はかからないのですが、人的リソースはすごくかかるという印象が私の中ではある。ただし、だからやらなくていいというわけじゃなくて、頑張ってくださいとしか言わないんですけど。

◎西尾委員長 好きな人は、1人で1日10個ぐらいやっていますよね。

◎渡邊副委員長 そうなんです。ただ、そこで大事なものは、自分の日常だったらいいですけども、市がわけのわからない日常をやっても、今日、昼ご飯はカレーだということを市が書いても、市長のカレーはどうでもいいですよとなってしまいます。

◎西尾委員長 市長もされていますよね。

◎一山委員 やっています。

◎西尾委員長 見たことがあります。選挙のときに見る機会がありました。今どうなっているのか、市長になるとやりにくいかもしれないですが。

◎渡邊副委員長 多分、そこだと思っんですね。何で市長になったらやりにくいかという、余計なことを言っちゃいけないとなってしまうのでやれないのです。しかし、多分、現実の魅力は、余計なことを言っているときにこそ魅力があるという、この矛盾をしっかりと考えておかないといけません。ネットの中で発信するということは難しい。

◎西尾委員長 時間が迫ってきました、今日、このテーマだと決めるつもりはないのですが、幾つか、今日の提案メモから確認したいと思います。私の提案がたまたま一番上にあるので恐縮ですが、そこから行きますと、第5期の提言の(1)に向けて、具体的な手順・方法を検討する。これは合意が得られているのではないかと思いますので、進めていきたいと思います。

それから、1つの手段として、ファシリテーターを養成するというのもぜひ考えてみたらいいのではないかと思います。

一山委員の提案のうち、基本方針と守備範囲の確定というのは、我々は提案をし、主体となってワークショップを実施することは直ちには考えず、あくまで提案するという事かというふうに思います。守備範囲はこのように理解したいと思います。でも、推進会議ですから、推進するという方向でフォーカスを絞っていきます。

フェイスブックはどうでしょう。ぜひ研究テーマに挙げていいのではないかと私は思います。三鷹も若者がやっているのは全部フェイスブックですね。それは職員が1人、一市民としてやっていますが、頑張り方はすさまじいです。60枚、写真を一気に掲載したり、毎日あんなに掲載していたら、フェイスブックにお金を払わないと、サーバーがいっぱいになっているのではないかとというぐらいです。今日、集合場所がどこかとか、グループはそれを全部フェイスブ

ックでやります。少なくともぜひ検討に値するのではないかと思います。

その他、ここに出てくるのはいろいろなグッドプラクティスな、先進事例です。これを学ぶというのが、小金井自身もいろいろな経験を今までされていると思うので、当然に1つの課題だろうと思います。(3)、(4)、(5)は先進事例に学ぶということでまとめられるかなと思います。

五島委員の提案の定期的な開催ですが、これは1つの実践の具体的な形として、平成29年にはぜひこういうものが実現するといいと私も思いますので、そのためのルール作りは1つの課題として挙げておきたいと思います。

佐久間委員はたくさん項目を挙げてくださり、このような項目を考えることが重要だということで、参考にさせていただきたいと思います。

三輪委員は、最後に市長と話し合いをするという部分で、当面の目標として、いいことではないかと思います。私も市長と話す機会がありましたが、どこかの時点で相談をしながら進めていくということも良いのではないかと思います。

大久保委員の提案3つも、基本的に勉強会、ワークショップを行うという整理でよろしいでしょうか。特に2番目の審議会の構成メンバーの件については、事務局のほうで実態はどうなっているのかぜひ調べていただければ、非常に参考になるのではないかと思います。市民グループは無限にありますので、その中でどういう方を代表として送ってもらっているのかということも調べていただければと思います。

◎大久保委員 3番についてなんですけれども、先ほど原さんから、公民館には各NPOや市民団体のどういうことをやっているかという冊子があるそうなので、ぜひそれを小金井市のホームページでデジタル化して、誰でもご覧になれて連絡できるような体制を作ってもらえればと。今はエクセルに横1行の連絡先で、何をやっているかとかが一切わからないような状況だったので。

◎西尾委員長 そうですね。

それから、原委員からいただいたアイデアについては、子どもと大学についてもこの中で、検討していきたいと思ったり、山下委員からの将来の若者という話も、具体化する中で考えていきたいと思ったり。

あと残り1、2分ですけれども、このような方向で進めさせていただいてよろしいでしょうか。まだフレキシブルに考えていい時期だと思いますので、このような形で皆様の提案を生かしていきたいと思ったり。

残る議題は、次回の日程です。事務局のほうから調整をお願いしたいと思います。

◎事務局 例年、5月ごろが次回の開催予定になりますが、新しい委員の方をお迎えするに当たり、大体5月12日ごろに新しい委員の方を決定し、決定通知を発送したいなと思ったり、5月12日以降に推進会議を開きたいと考えております。前回の会議では木曜、金曜というお話だったので、この曜日を中心に考えますと、5月19、20、26、27日の中で、時

間帯は今回のように7時から行いたいと思います。日程調整をしていただければと思います。

◎西尾委員長 少し先のことですね。来年度なので、まだスケジュールが入っていないこともあります。私は木曜、金曜なら平気だと思います。また改めて調整でよろしいですか。事務局からまた調整をお願いしたいと思います。

それでは、バスに間に合うかどうか微妙な時間帯になりましたけれども、今日はどうもありがとうございました。

(午後9時00分閉会)